

フィリップ・ロス・フォックスウェルによる オーラル・ヒストリーの翻訳と解説

——日本宣教 30 年をふり返って (2) ——

岩田三枝子

初めに

本オーラルヒストリーは、1991 年に行われたホイトン大学ビリー・グラハム・センターのアーカイブ室による、フィリップ・ロス・フォックスウェルに対して行われたオーラルヒストリー記録（インタビューア：ポール・A・エリクソン）の全文翻訳の後編である。⁽¹⁾

前号の前編では、フォックスウェルの宗教的な家庭環境、手品との出会いや、ホイトン大学在学中の様子、日本宣教開始期の状況、また東京基督神学校開校の経緯などに触れられていたが、今回の後編では、東京基督神学校のさらに詳細な様子や、東京キリスト教短期大学及び共立女子聖書学院との合同に寄せたフォックスウェルの思い、また日本文化や天皇制への視点が語られている。

第二次世界大戦後の間もない貧困期から、やがて経済的に豊かになっていく日本の戦後の変遷を見つめてきたフォックスウェルのオーラル・ヒストリーからは、個人の決断よりも家族や共同体の決断が優先されたり、明確な発言を避けて遠回しに語るといった日本文化の側面に戸惑いながらも、日本文化への理解に努め、また経済的に優位な宣教師側が一方的に上

(1) 前号に引き続き、貴重な資料であるフォックスウェルによるオーラルヒストリーの翻訳と掲載を快く許可してくださったビリー・グラハム・センターのアーカイブ室に心からの感謝を申し上げる。

に立つのではなく、宣教師と日本人が対等な立場に立って宣教が推し進められていく様子を喜びとする姿が見られる。一方では、日本の天皇制に対して厳しい批判の視点を持ち、「天皇礼拝は、日本人をキリスト教から遠ざけるための優れたサタンの装置の一つ」と明言し、天皇制を危惧する。1950年代から70年代の日本宣教を振り返るオーラル・ヒストリーでありながら、今日の日本宣教にもなお示唆に富む指摘となっている。

さらに、注目すべき箇所の一つとして、フォックスウェル自身も「言及に値する」と述べているフォックスウェルの東京ティラナスホールでの役割に触れる部分を取り上げたい。東京ティラナスホールは、1959年、地方から上京するクリスチャンの大学生のため、宣教師チャールズ・コーウィンによって、西東京市に創設された学生寮であり、2019年現在もティラナスホールの働きが継続されている。フォックスウェルはこの寮の活動初期に関わった経緯に触れ、この寮での活動の一環として、神学校から教員を寮に送り、夜には「キリスト教世界観と彼らの世俗の学問とを統合する手助けとなるようなプログラムをデザイン」した、と述べている。またこのプログラムの目的について、一般の大学で学ぶクリスチャンの学生たちが、「頭のある部分ではキリスト教」だが「頭の他の部分では、紛れもなく非キリスト教的な哲学を持ち、その二つを統合することがない」ため、「学生たちが自分たちの大学で聞いたこととキリスト教世界観を統合できるように助ける」ためであったと語る⁽²⁾。

フォックスウェルはオーラル・ヒストリーのさらに別の箇所で、自身の日本宣教において最後まで関わった教育分野としてキリスト教教育哲学をあげ、聖書と他の学問分野の知識が「並行的に理解されている」のではなく、「全ての知識と御言葉とを統合するということは、日本で発展と普及が必要な概念」であったと指摘している。

(2) 東京ティラナスホールの変遷や現在の様子については、『主にあって共に生きる若者たち — 東京ティラナスホール物語』（今村博子、雑賀編集工房、2012年）に詳しい。コーウィン（1925-）の著に、『21世紀のサムライ — 新・武士道が日本の未来を切り拓く』（築地書館、2000年）がある。

フォックスウェルが1949年設立に関わった東京基督神学校は、後に1981年東京キリスト教短期大学及び共立女子聖書学院と合同し、1990年には東京キリスト教短期大学が東京基督教大学として発展、さらに2012年に東京基督神学校は閉校して東京基督教大学の博士前期課程を含む教職課程として再編される。

東京基督教大学初代学長の丸山忠孝は、この東京基督教大学の大学ロゴである「キリストがすべて」(コロサイ3:11)について、「『キリストがすべて』とする学問の樹立を目指す方向」と、「『キリストがすべてのうちにおられる』というキリストの世界における遍在の事実」を指摘した上で、「『キリストがすべて』とする学問の樹立⁽³⁾」と説明する。また、東京基督教大学神学部のカリキュラムの説明においては、東京基督教大学「の教育の特徴は、キリスト教世界観に基づくリベラル・アーツ教育を基礎と⁽⁴⁾」すると記され、その他、神学科、国際キリスト教学専攻、キリスト教福祉学専攻のカリキュラム説明においても、キリスト教世界観を基盤とした教育の重要性が繰り返し強調されている。フォックスウェルが1959年当時にクリスチャンである日本人に必要な概念として示した、キリスト教世界観と諸学問との統合の方向性が、30年を経て東京基督教大学において継承されたとも評価できるだろう。

一方で、東京基督教大学設立直後である1991年に行われたフォックスウェルによるオーラル・ヒストリーから、今日さらに30年近い年月が経過し、東京基督教大学は設立30周年を迎えた。フォックスウェルが指摘したようなキリスト教世界観を基盤とした学問形成の伝統を保持しつつ、同時に、世界と日本のグローバル化が加速度的に進む現代の必要に即した

(3) 丸山忠孝「神学大学の理念」(『キリストと世界』1号、1991年)2-16頁。

(4) 神学部カリキュラム説明(2019年度現在)。

(5) 詳細については、東京基督教大学設置と同時に解説された国際キリスト教学科の理念とその意義を、設立から20年間の国際キリスト教学科及び国際キリスト教学専攻卒業生に行ったアンケート結果をもとに検証した拙論「国際キリスト教学アンケート調査—20期生卒業を迎えて」(岩田三枝子、『キリストと世界』24号、2014年、53-79頁)を参照のこと。

新しい方向性が、日本の神学教育の次の30年への課題かもしれない。

前号・今号では、フォックスウェルによるオーラル・ヒストリー資料の紹介に留めたが、フォックスウェルの神学や日本宣教への意義や影響等、さらに掘り下げるべき課題も多く残されている。今後の研究課題としていきたい。

(インタビュー後編)⁽⁶⁾

教会形成

エリクソン：最初の年は、言語を磨いていたのですか。

フォックスウェル：始めの年、そして私の生涯ずっと言語を磨いていました。辞書を持たずに長い会議に出席することはなかったと思います。

思い出してみると、最初の年、いくつかの日曜学校を行っていました。ジョン・ヤング⁽⁷⁾と私は、最初の年にいくつかの日曜学校を行い、最終的には、力強い教会となりました。私たちは、始めの年に子供たちの集まりを行い、いくつかの教会を始めました。

ジョン・ヤングと私は、教派を開拓したいとは思っていませんでした。

(6) 前号に引き続き、本オーラル・ヒストリーには重複したり冗長な証言も複数回登場するが、オーラル・ヒストリー資料保存としての側面から、訳者による編集や省略は行わず、忠実な訳出を行った。ただし、原文テキストに記録されている「ああ」などの間投詞や、「ええ」といったあいづち、連続した箇所における同じ言葉の繰り返し、また「休憩にしましょう」「(テープレコーダーを一時止める)」といったインタビュー内容に直接関係しない文章は、インタビュー内容に影響しない範囲において、本翻訳では削除した。また、読みやすさを考慮して、原文にはない小見出しと段落を加えた。なお、本文中で「()」として補足されているものは原文上での補足であり、脚注による補足説明は、翻訳者によるものである。

(7) ジョン・ヤング (John M. L. Young, 1912–1994)。カナダのアケイデア大学、フェイイス神学校で学び、ウィルクス・バラ聖書学校、南京の霊修神学校でも教鞭を執る。ヤングの著に、『宣教師が観た天皇制とキリスト教』(燦葉出版社、2005年)がある。

日本では独立派であることは、アメリカでよりも、さらに歓迎されていません。保守的な40人の牧師たちとのある会議の後、私は親しみをもってリベラルの人たちのことを批判しました。すると、牧師たちから「フォックスウェル先生、あなたのことは好きですし、あなたは良い人です。でも私たちは、リベラルな神学者たちを批判しません。」と言われました。

ジョン・ヤングと私はパートナーのようなものでした。私たちは宣教のために来日しているのであり、何か別の教派を始めるという考えは全く持っていませんでした。私たちの神学に一番近かったのが、改革派と呼ばれる日本基督教改革派教会でした。1949年、ジョン・ヤングと私は彼らの年次大会に行き、「私たちはここにおります。もし私たちと一緒に何かをすることを願っておられるのであれば、どんな方法でも私たちができるお手伝いしたいのです。」と伝えました。日本人は、必要以上に丁寧すぎると思います。リベラルな神学者たちのことを多くの場所で批判しないといったようなことです。とにかく、ジョン・ヤングと私は、1949年の年次大会の中で、改革派神学のプログラムのお手伝いができると申し出ましたが、カール・マッキンタイヤ⁽⁸⁾と分離主義との接触によって分離主義の汚名を着せられていた私達は、彼らからそれほど必要とされませんでした。

私たちがそうしたかったからではありませんが、ジョン・ヤングと私は教派を開始し、それは正式な日本の長老派となりました。かなりの数の教会員がいます。長老派は戦争で、合同教会と呼ばれました。その中でも旧長老派と新長老派があります。私たちは、それには当てはまるようには思えませんでした。私たちが本当に望んだものではありませんが、日本長老教会を開始することになりました。訓練した2人の男性は、クリスチャンの指導者となりました。彼らはこの夏に北米長老教会の大会に参加し、6月にカルフォルニアで私たちと数日間とも

(8) カール・マッキンタイヤ (Carl Curtis McIntire, Jr., 1906–2002)。Bible Presbyterian Church の設立者、ラジオ伝道説教者。

に過ごす予定です。

エリクソン：日本のその教派と PCA の間に何らかの関係はありますか？⁽⁹⁾

フォックスウェル：そうですね、私たちが関係したので・・・

エリクソン：あなたが結びつけたのですね。

フォックスウェル：そうです。

エリクソン：神学校は、8人か9人で始めた、と言われました。⁽¹⁰⁾

フォックスウェル：初めはそうでした。

エリクソン：教授陣は何人でしたか？

フォックスウェル：その時まで、ジョン・ヤングと私、私たちの妻たち、⁽¹¹⁾
3人の独身の女性、ですから7人です。そして最初は、2人、3人の
日本人だったと思います。⁽¹²⁾ 小さな経営でした。価値あるもの、そして
日本のキリスト教会の中で指導的立場となる人々を生み出すことがで
きてよかったと思っています。⁽¹³⁾

エリクソン：その大学は、今は教派的協力関係がありますか？

(9) アメリカ長老教会 (Presbyterian Church in America)。合衆国長老教会 (The Presbyterian Church in the United States) のイエス・キリストの神性と聖書の權威を否定するリベラル神学に反対し、1973年に分離独立した。

(10) 第一期生入学者は、芦沢達、尾山令仁、小畑進、有賀寿、有賀豊二、加藤咲子、渡辺功、勝又智男。

(11) ジェーン・フォックスウェル (Jane Alice Foxwell, ?-1999) はホイトン大学卒業後、ルーズベルト看護婦学校に学び、東京基督神学校では衛生学等を教えた。ジーン・ヤング (Jean Young) はトロント大学附属病院の看護学校を卒業し、東京基督神学校では衛生学等を教えた。

(12) アン・クラウス (Anne Paxton Krauss, 1918-2010) はウィルソン大学、フェイス神学校で学び、東京基督神学校では旧約学等を教えた。アン・ウィルグスワース (Anne E. Wigglesworth, 1915-1995) はデラウェア大学、フェイス神学校等で学び、東京基督神学校では教会史等を教えた。二人は共に14年間、日本で宣教を行った。エベリン・リットルはコロンビア聖書大学で学び、東京基督神学校では教会音楽等を教えた。

(13) 1949年の日本人教師は渡辺連平、長谷川真太郎。講師として、大村晴雄、藤井重顕。女子学監に長谷川省子。

フォックスウェル:それはありません。トップの男性は、日本長老教会に属しています。大学には、神学校から来た人々と、よりアルメニアン的な背景の人々が混在しています。そこには神学的な緊張もありますが、教授陣の幅を広げる機関では、おそらくどこでもそのような緊張感があるでしょう。

エリクソン:1949年には存在していなかった東京や日本の他の福音派の機関はどうですか？

フォックスウェル:訓練を受けるための福音派の機関がもっとあります。列挙できないくらいです。その中でも私たちが一番初めでした。合同することは、神様の摂理だと信じていました。日本で、キリスト教の学校が認可を得ることは非常に困難ですが、この2年のうちに、認可を得ることができました。それが認可されてから2年経っていません。日本ではとても難しいことです。私たちは、クリスチャンがいまだ1%か2%の国について話しているということを思い出してください。

ピーター・ワグナー⁽¹⁴⁾が、おそらく日本の京都のことを、そこはサタンの王座が存在する場所で、知っている人は誰でも「その場所は、他のどの場所よりも、日本のクリスチャンたちの多くのお金と多くの努力に対する見返りが実質的に少ない場所だ」と言う、と語っています。

日本宣教の黄金の機会と困難

エリクソン:戦争が終わり、アメリカによる占領が行われた直後にあなたは日本にいましたが、日本で働きを開始する際、宣教師にとってはどのような環境でしたか？

フォックスウェル:黄金の機会と困難な課題の両方です。黄金の機会というのは、こういうことです。もしあなたがパウル・ハーバーの6ヶ月後に日本の新聞を読んだとしたら、このような見出しを見つけたで

(14) ピーター・ワグナー (Charles Peter Wagner, 1930–2016)。1956–1971年までボリビアへの宣教師。1971–2001年まで、フラ神学校で教会成長の教鞭を執る。

しょう。「アメリカは多くの石油と鋼鉄を持っている。しかし、神々は我々の側にいる。神々は我々に勝利を与えるだろう。」神々が勝利を与えると、日本人はその時本当にそう考えていたのです。

エリクソン：宣教の働きを始めた最初の頃はhowですか？

フォックスウェル：ロイ・ハセガワが1949年に私たち宣教師の所に来て、⁽¹⁵⁾「私たちには、福音的な神学校が一枚もない。」と訴えました。東京では、と言う意味でしょう。日本の子供たちは、アメリカのように、学校に行くためにそれほど遠くまでは赴かない時代でした。彼が「一枚ありません。」と私たち宣教師に、投げかけました。福音派の神学校の必要が本当にあったのです。保守的な立場からの旧約聖書の注解書が一冊も書かれていないということも聞きました。クリスチャンの証と宣教が開始されて140年が経ち、日本ではクリスチャンが1%か2%しかないということを思い出してください。彼らがあげさだということとは言えません。

エリクソン：神学校よりも、もう少し一般的な状況を聞かせてください。福音派の宣教師が来て、活動を始めた時、どういった様子でしたか？先ほど、黄金の機会と同時に、困難があったと言われました。

フォックスウェル：そうです。もし路傍で集会をすれば、膝元に30人が集まりました。戦争後の空虚感がありました。日本人は実質的に、新しいことに対してどのような準備でもできていました。私は古着を配布していました。日本人の両親たちが子供を日曜学校に來させるのですが、それはキリスト教的な視点を学ぶためではなく、洋服を手に入れるためでした。私たちにはすばらしい日曜学校があり、それは、古着の配布によって援助されていました。戦後、誰も着るものを持っておらず、銀行員でも洋服につき当てをしていました。私は一度、感謝

(15) 長谷川真太郎 (1916–1996)。ハンプデンシドニー大学、フェイス神学校で学ぶ。1947年、父親の自宅に堀之内キリスト教会を設立し、初代牧師に就任する。1949年10月、自宅に東京基督神学校を設立し、学監に就任する。1951年、東京基督神学校から分離した東京神学塾の学長に就任する。

祭の食事のために、スーツと鶏を交換したこともあります。

エリクソン：最初の2、3年を振り返って、何か間違いだったと思うことはありますか？ 宣教団は、働きを始めるために設立されたのですね。そのような大変だったことから学ぶことはありますか？あなた自身のことだけでなくとも良いのですが。

フォックスウェル：そのころの困難の一つは、日本人が何を考えているかを本当に知ることでした。日本人は、他の人に良い感じを与えたいために、率直なコミュニケーションをしないという特徴があります。

一度、私が日本人のアドバイザーに、「ナイトウ先生、AとBのどちらに行くべきでしょうか？」と聞いた時、彼は、「Aに行きなさい」と言いました。数ヶ月がたち、私は誤った方を選んでいたことが明らかになりました。私がナイトウ先生に、「こういう結果になる、とわかっていなかったのですか？」と聞くと、彼は、「ええ、はい」と答えます。私が、「では、一体どうして、はっきりと示してくれなかったのですか？」と聞くと、「あなたが聞きたいだろうと思ったことを言ったのです」という答えでした。

またある時私は、日本人の牧師たちの会議に座っていました。ある課題が持ち上がり、その中の一人がニヤリとして、手に持っていた紙を指さしました。私は、「ああ」と思いました。持ち上がった課題は、その時に議論されて承認されることになるだろう議題でしたが、それは、私がかかなり前に提案していたことでした。でも私は、それを日本人的な方法で扱っていませんでした。丸山軍司⁽¹⁶⁾が私に言ったことがあります。「いいですか。あなたは正しいアイデアを持っています。その種を植え、手を出さないで、その種が現地の土地で成長するようにしなくてははいけません。あなたはやって来て、物事を大げさにしすぎます。あなたは種を植え、手を出さず、種を成長させる必要があります。」日本で私たちを助けてくれたのは、こういうことです。

(16) 丸山軍司(1928-)。日本基督神学校第四回卒業生。1956年、日本基督長老教会設立に関わる。日本基督神学校舎監を務める。

宣教団体や海外からお金が入って来る多くの宣教地は、自分たちの国が拘束され、不利な立場に置かれているように常に感じています。日本は時を経て、より豊かになり、「この人たちはお金を持っているから、彼らに対してへりくだる必要がある。」というような関係が私達の間にはなくなるという成果を得ました。私たちが日本で何の問題も持たない時が来たことは、日本人と働くにあたって、素晴らしいことでした。私たちは、議論をする時には対等な立場でした。私は、「これはどうですか?」とよく尋ねました。先の男性が教えてくれた「いいですか。あなたは正しいアイディアを持っているけど、それを現地の土地に植えて、手を出さず、それを出させるのではなく、出てくるようにする必要があります。そうすれば、出てくるのです。」という言葉を特に思い出します。

一つ面白いことを思い出しました。ウェストミンスター信仰告白について数人の日本人牧師と議論していた時のことです。彼らは、最終的にこう決断しました。「これは称賛すべき点がいくつかある。でも、これは外国人によって編纂されたのだから、これはやめて、他のものを採用しよう。」その時にはユーモラスに感じました。つまり、「ウェストミンスター信仰告白は外国人によって作られたのだから、これはやめて、もっと現地のものを採用しよう」ということです。

日本と協力する中で有益だった点は、私たちがより対等に議論したり、決定できたことです。私たちはパートナーのような関係で、彼らは日本の側として、私たちは宣教団の側として、一緒に活動ができました。宣教師にとって恐ろしい障害があります。それは、宣教師がお金を投入し、相手がそれを受けとり、その関係の中でお互いに生きていく状況です。私たちは、物事について、日本人と対等のパートナーという状況にありました。

エリクソン：そこに至るまでに、どのくらいかかりましたか？

フォックスウェル：大体20年ほどです。

エリクソン：ですから、1970年。それは長く感じましたか？宣教師の間

では、どのような感情がありましたか？ 長い期間ですか？ 短すぎる期間ですか？

フォックスウェル:私たちは、その時がやって来た時に、皆が良い感情を持っていたと思います。良い宣教師は、消耗されることを知っています。もし宣教師が自分のことを必要不可欠な存在だと考えてしまうとすれば……、つまり、私は弁証学を教えていましたが、私の生徒が⁽¹⁷⁾ Th.D. を得ました。私よりも、ずっと良い学位です。私は田辺⁽¹⁸⁾ 滋という女性に、ギリシャ語を教えました。彼女は、メイチェンのギリシャ語文法を日本語に翻訳しました。彼女はホイトンにいました。彼女をこの学校にしばらく送り出したのです。田辺 滋です。

エリクソン:宣教師たちは、このような平等な状況に対して、どのように感じていましたか？

フォックスウェル:それはいつも難しいものです。日本は、経済的豊かさと、この不平等さを排除したという成功によって、祝福されていました。実際、とても新しい車に乗っていた日本人の一人の教師がいて、別の宣教師と私は「私たちも、日本人のような暮らしがしたいですね。」と冗談を言っていました。日本人は、年月を経て、非常に豊かになっていきました。

エリクソン:ではその時、日本人はどのようにして独立性や平等性を行使していましたか？

フォックスウェル:彼らは、何かについて投票し、否決することで、そのことを私たちに知らせていました。日本人は時々、私自身が小さな存在であるかのように感じさせるといえます。

エリクソン:そういうことが起こったことはありますか？

(17) 宇田進 (1933—)。日本基督神学校第四回卒業生。ウェストミンスター神学校から Th.D. を得て、日本基督神学校で教鞭を執る。

(18) 田辺滋 (1916—2016)。日本基督神学校、フェイス神学校、カペナント神学校で学び、東京基督神学校で教鞭を執る。『新約聖書ギリシャ語原典入門』(ジョン・グレシャム・メイチェン著) の翻訳者。

フォックスウェル：ええ、「これは、あなた方外国人と議論するような価値はありません。なぜなら、あなたは……。」と日本人にけなされました。他の文化でも、そうかもしれません。私のことについて話しているだけです。妻と私は、結論としては、多くの日本人との関係性に、とてもとても良い感情を持っています。今でも関係を持っている人たちが多くいます。

東京ティラナスホールでの働き

エリクソン：神学校で、公開講座での神学教育はありましたか？

フォックスウェル：いいえ。日本で勉強をしたい人は、それが神学であればなんであれ、東京に来ます。東京には、いろいろな大学などが集まっています。私に関わっていたことで、言及に値することがあります。一人のクリスチャン学生が大学のために東京エリアに来て、ノン・クリスチャンの社会環境の中で、ノン・クリスチャンの教育の哲学の環境に身を置きました。そこで、チャールズ・コーウィン⁽¹⁹⁾という私の友人が、郊外から来るクリスチャン学生のために寮を立てました⁽²⁰⁾。私はその理事となり、何年か親しく働きました。

この学生たちは、自分たちの大学のクラスに行きますが、夜には私たちの神学校の教授を送り、キリスト教世界観と彼らの世俗の学問とを統合する手助けとなるようなプログラムを作りました。そうでないと、典型的な日本人のクリスチャンは、頭のある部分ではキリスト教なのですが、頭の他の部分では、紛れもなく非キリスト教的な哲学を持ち、

(19) チャールズ・コーウィン (Charles Corwin, 1925—) 1945年、半年間ほど占領軍士官として横須賀に滞在。1952年、宣教師として来日。日本で始まったティラナスホールのミニストリーは、その後、インド、ネパール、バングラディシュ、ハンガリー、チェコ、ミャンマー、カンボジアにも広がった。

(20) 東京ティラナスホール。1959年、地方から上京するクリスチャンの大学生の学生寮として、チャールズ・コーウィンによって、西東京市に創設された。

その二つを統合することがないのです。コーウィンは良いことを多く行いましたが、そこではティラナスホールという寮を作りました。これは、クリスチャンのための寮です。学生たちが来て、そこで生活をし、大学へ行き、けれども、私たち神学校の教授を送ることで、学生たちが自分たちの大学で聞いたこととキリスト教世界観を統合できるように助ける夜の学校のようなものでした。これは、私が関わった小さなことの中で、良いものだったと感じていることの一つです。

東京基督神学校の発展

エリクソン：神学校がどのように設立されたかについて話していただけですか？ 神学校がどのように成長して、変化したかについて説明してください。

フォックスウェル：神学校は1949年に日本の3階建家屋で始まりました。アメリカで大学院を終了したロイ・ハセガワの家です。妻と私は、移動住宅を神学校の庭に引いてきて、そこで生活をしていました。ある時には、20人ほどの学生たちがこの日本家屋で生活していることもありました。これが神学校の始まりです。

初めは10人ほどの学生でした。ホイートンからエノク・ダイネス博士が訪問してきた時には、勉強するために、学生たちは階段に座っていたと思います。神学校は3階建の日本家屋で、1949年の秋に始まりました。私の家族は裏庭に、移動住宅を引っ張ってきていました。その時に、私は小さな娘が二人いました。

年月を経る中での一つの特徴は、宣教師の教授は少なくなり、日本人の教授が増えたことです。例えば、私の学生の一人は、アメリカに来て、Th.D.を取り、戻ってきて、私よりも上手に弁証学を教えることができました。私がギリシャ語を教えた女性は、日本に戻り、メイチェンの教科書を日本語にして、教師である私よりも格段に上を行いました。私は嬉しく思っています。

日本では私たちは何かを持ち上げたり、時には下ろしたりするための足場のようなものであると、常に思っていました。ですから、時間が経過し、日本人から多くの影響を受けました。アメリカの宣教師の教師からも影響を受けましたが、さらなる影響、さらなる情報、さらなる方向性は、日本人から受けました。

今、私たちのオフィスに、1人か2人の数人の外国人宣教師がいます。今日アメリカ人にとって、日本の高等教育機関で教えることは、何かの特別な専門性が必要です。私の場合は、多かれ少なかれ、仕事の範囲以外にも働きました。ギリシャ語、弁証学、そして証論を教えました。

最後まで教えていたものは、キリスト教教育の哲学です。それは、日本人がキリスト教教育の哲学の概念をあまり持っていないようだったからです。つまり、聖書ともう一つの知識が並行的に理解されているだけです。全ての知識と御言葉を統合するということは、日本で発展と普及が必要な概念です。私が最後にしていたことの一つは、教育のキリスト教哲学を教えることでした。

エリクソン：退職するまで、それを教えていたのですか？

フォックスウェル：ほとんど最後まで教えていました。

フォックスウェル：私たちは、神学校に別の学長がいました。彼が休暇を取る時は、私が学長になりました。ジョン・ヤングです。

エリクソン：あなたは教授の立場でしたか？

フォックスウェル：教授でした。ジョンが教会成長の分野で大きな貢献をしました。私は資金面での働きでした。私は日本の実際の土地取引に関わっていました。

エリクソン：神学校のために。

フォックスウェル：神学校のためにです。私は出かけて行き、土地の区画を見て、何機の飛行機が飛び交うかを調べ、その土地がふさわしいかどうかを確認しましたが、土地は帯に短し、たすきに長し、でした。神学校は、今では4番目の場所にあります。毎回、私たちはより安い土

地を手に入れ、土地や建物のためにより多くのお金を手に入れました。それが典型的な方法でした。今では、美しい建物となっています。かつてと比較すると、日本での長い道のりでした。

エリクソン：神学校で日本人の学長が初めて任命されたのは、大体いつ頃でしたか？

フォックスウェル：1965年だったと思います。1960年から65年の間だと思います。でも、徐々に私たちは移行していました。

エリクソン：かつては呼ばれていた名称は、日本……

フォックスウェル：日本基督神学校です。

三校合同へ

フォックスウェル：いつ、東京基督神学校になったのですか？

フォックスウェル：三校合同は、多くの協力による合同でした。同時に、それぞれのアイデンティティを保っていました。より大きな部分は、ドン・ホーク⁽²¹⁾の設立した東京キリスト教短期大学と私が関わった神学校⁽²²⁾の合同です。そして、共立女子聖書学院⁽²³⁾です。この三校が合同しました。

エリクソン：あなたとドン・ホークは良い友人同士で、二つの教育機関を立て上げられました。二人の間に競争のようなものはありましたか？

フォックスウェル：いいえ。とてもうまくいっていました。私は初期の頃、彼に神学校の教員たちを提供しました。私たちの個人的な友情は、多

(21) ドナルド・ホーク (Donald Hoke, 1919—2006)。ホイートン大学、ホイートン大学院で学び、TEAM 宣教師として来日。1955年、日本クリスチャン・カレッジ (1966年に、東京キリスト教短期大学として発足) を設立。

(22) 東京キリスト教短期大学。1950年、日本同盟聖書学院として開校。1966年、東京キリスト教短期大学が開校。1981年に東京基督教短期大学に改称。

(23) 共立女子聖書学院。1881年、偕成伝道女学校として開校。1907年、共立女子神学校に改称。第2次世界大戦中、青山学院神学部女子部等と合同し、日本女子神学校になる。1951年、共立女子聖書学院として再興される。1980年閉校。

くの良い促進剤となりました。私たちの神学校は、彼を助けることができました。彼が1950年来日した時、キリスト教大学の代表として、何ヶ月間か私の家に住んでいました。私たちは1年目から一緒に働きました。

日本の教会の成長

エリクソン：日本の教会のことに話を移しましょう。30年間日本に滞在し、日本の教会の成長がなぜそれほど遅いかについて、何か理論は発展しましたか？

フォックスウェル：多くの要因があります。その多くの要因について良い博士論文を書くことができるでしょうが、こう始めることができます。日本でクリスチャンになることは、典型的には、自分自身を自文化から取り出すことです。自分自身の社会的な関係の中から、自分を追放者のようにすることです。日本でクリスチャンになることは、特に戦前は、アルジャー・ヒス（ソ連のためのスパイとして告訴されたアメリカの政府役人）のように、国の価値の裏切り者のようなものだ、と強調する事ができます。

エリクソン：その他に、教会の成長が遅い理由として、考えられる要因はありますか？

フォックスウェル：すでに言いましたが、日本人の決断は、多くの場合、家族の決断です。例えば、ある若い男性が医学を志したとします。彼は、親族全員を温泉などに連れて行き、どの専門領域にすべきかを論議するのです。決断は、個人の決断であるよりも、家族の決断です。男性がどの学校に行くかということも、日本では、個人の決断であるよりも、むしろ家族の決断です。

エリクソン：先ほど、日本では教会の成長は遅く、韓国では驚くべき教会の成長がある、という話がありました。

フォックスウェル：もしあなたが宣教師として日本に住んでいれば、苦し

み、常にこう自問するでしょう。「なぜ韓国では25%、30%の教会成長があり、日本の成長は、最小の1%、2%なのだろう」と。能力のある宣教師、言語の賜物があり真に人々に献げている宣教師が10年間ほど日本で働いて、教会には10人やそこらの人数なのです。一方で、韓国には世界で一番大きな教会があります。30年間日本に住んでいたような人は、誰でもこの質問をし続けます。「世界で一番大きな教会が韓国にあり、私たちの平均的な教会の出席者は20人から30人なのは、この大きな違いは何だろう。」500人やそれ以上の大きな教会もいくつかあります。でも、典型的には、日本は小さな教会です。一度、私は調査をしたことがありました。平均的な出席者は日本では20人で、韓国では驚くほど大人数でした。多くの要因があります。これらの要因は常に、日本に住んでいる宣教師にとって、おそらく思わせぶりで、挑戦的で、心を引き裂かれるようなものでしょう。なぜ韓国ではこのような素晴らしく大きな教会があり、日本の教会は小さいのか？

大きな要因としては、韓国の指導者たちは少なくともキリスト教に対してもっと開かれているということがあります。韓国の神は、天の神と類似しています。つまり、一人の神、「ハナニム」です。一つの簡単な説明は、韓国人にとってキリスト教とは、すでに信じている一人の真の天の神についての信仰をもう少し良く理解することだ、ということです。

一方、日本では異なります。日本が英国よりも先んじている分野についてサッチャー女史と日本の首相が議論をした時、日本の首相がサッチャー女史にこう言いました。「あなたたちには一人の神がいますが、私たちには八百万の神がいます。」これは、なぜ日本人がある分野で英国人よりも成功しているかについての見当違いな説明です。

ですから、こう言えます。つまり、韓国では、長年の間、「ハナニム」や、一人の神、真の神、天の神とキリスト教の神と結びつけることができました。韓国では、異教的な概念に、キリスト教的な根源をたどることができます。

天皇制を持つ日本では、天皇を神として礼拝します。日本でキリスト教に改心するということは、生きた虎から歯を抜くようなものと表現した人がかつていました。簡単にいうと、戦前日本でクリスチャンになるということは、アルジャー・ヒスになるということです。それは、裏切り者となることです。真に日本的なすべてから背を向けることなのです。以前は特にそうでした。私の生徒で、クリスチャンの教員になった人がいました。彼らは、クリスチャンとなったために、家族から追放されました。日本の歴史の中では、「誰でもキリスト教徒を知っている者には、その情報を提供することで、褒美を与える」と御触書が掲示されていたこともありました。ですから、長年、日本でクリスチャンになることは、良いこととはされていませんでした。

天皇制

エリクソン:日本でキリスト教の視点を明らかにすることは、あなたが滞在していた間に変化がありましたか？

フォックスウェル: そうだ、と言えます。奇妙なことですが、今日、日本では、聖書はベストセラーとなっています。他の重要な要因として、TEAM (The Evangelical Alliance Mission) が日本で出版社を設立した⁽²⁴⁾ことがあります。キリスト教文書の出版社です。私は、日本の教会のリベラルサイドからの代表者たちもいた出版社のディナーに参加しました。このリベラルサイドの指導者の一人が、「かつては私たちが出版に影響力を持っていましたが、今では、あなたたちがもっと影響力のある大きな出版社となりましたね。」と言いました。戦後、聖書やキリスト教文書は非常に効果的で、成功しました。痛ましいことは、それほど聖書が読まれているのに、日本のクリスチャンの証人は、その割合が非

(24) いのちのこば社。1950年、TEAM 宣教師ケネス・マクビーティ (Kenneth G. Mcvety) により設立された。マクビーティの著に、『いのちのこばをしっかりと握って——戦後文書伝道物語』(いのちのこば社、2011年)がある。

常に少ないということです。他のどの場所でも、日本での宣教の努力は見返りが少ないように見えます。しかし、特に以前には、日本でクリスチャンになることは、非愛国主義者となることだったと覚えておくことは良いことです。それは、アルジャー・ヒスのように、自国に背信することです。

天皇が神聖な存在である限り……。私は、天皇礼拝は悲しむべき、サタンの仕掛けであると考えてきました。天皇礼拝がある限り、天皇礼拝をしないことは、非愛国主義の日本人となるということです。ですから天皇礼拝は、日本人をキリスト教から遠ざけるための優れたサタンの装置の一つです。それは、追放者となることです。今ではキリスト教文書の基盤を得ていますから、このような状況は少なくなっています。

エリクソン:天皇について言及されましたが、カーター大統領が日本を訪問する前に、明治神宮を訪問しないようにと、彼を説得しようと言われました。そのことについて少し話していただけますか？

フォックスウェル:私たち宣教師は一般的に、アメリカ人たちに神社には行かせないようにしています。神社参拝は、日本の異教の宗教を受け入れたかのように日本人からは見られるからです。多くの場合、来日したアメリカの政治家たちは、これは無名兵士の墓に花輪をかけるようなものだというようなことを説明され、惑わされています。キリスト教にとって、アメリカ人を神社に行かせることは有益ではありません。これは、無名兵士の墓に行くこととは非常に異なります。日本の宗教は、神道と呼ばれる宗教を通して政府と不可分の関係にあります。クリスチャンになることは、日本の非愛国者となることです。非常に大きな問題の一つです。私は成功した宣教師を見ましたが、成功、というのは、言語の能力があり、献身的で、しかし10年経って、日曜の朝の礼拝に8人か9人の人数しか集まっていないという状況がありました。

しかし、今は変化してきています。私たちの宣教団は書物を出版して、

TEAM 宣教団も書物を出版しました。包括主義の宣教団では、その宣教団の委員会には保守派もリベラルもいて、韓国には保守派を送り、日本にはリベラル派を送るというポリシーを持っていると聞いたことがあります。もし大きな宣教団委員会が韓国にリベラル派を送っていたら、韓国人は、「X 博士は素晴らしいジェントルマンだ。けれども、ここにはふさわしくない。彼を去らせた方が良いだろう。」と言ったでしょう。そして委員会はその人物を日本に連れて行ったでしょう。日本ではその宣教師は何の問題もなく、幸せに暮らすことができるでしょう。日本では、リベラル神学からの過度な攻撃はありません。私たちには奇妙なことです、リベラル神学では、天皇が三位一体の神の第四の位格とされています。

エリクソン:カーターの件で、どのような気持ちだったのでしょうか？つまり、彼は神社へ行きました。宣教師たちや日本のクリスチャンにとっては、どのような気持ちだったのでしょうか？

フォックスウェル:私たちクリスチャンは、まやかしを刷り込まれたアメリカ人に対して同情的でした。彼を気の毒に思い、彼は信じ込まされていると感じています。私たちは、日本人の行きすぎた暗示を嫌っています。「あなたにはあなたの宗教があり、それで良い。私たちには私たちの宗教がある。あなたがそれを尊重し、それを認めてくれれば感謝である。」一方で、ホイトンの神学の土台では、神道はそのようなものではありません。

アメリカ人と日本人

エリクソン:アメリカ人が日本人に対して持っている誤認識はどのようなもののでしょうか？

フォックスウェル:その答えは、私たちと同じように考えることを日本人に期待していることです。少し遠回りした答えですが、例えば日本では、政府と労働組合は、互いに争いません。私がある時日本から戻っ

た時に、ハリー・ブリッジズ⁽²⁵⁾によって何ヶ月間も占領されている波止場があり、荷物を自分で引いていかなければなりませんでした。日本人は、このようなことを許容しません。労働組合と経営側は、チームとして一緒に働いています。これは、日本人がアメリカ人よりも多く所有しているかどうか、ということがあります。日本が多くの自然資源を持っていないと感じる必要はありません。彼らは多くの木材を持っておらず、石油を輸入しています。また土地も限られていますが、ある点で私たちよりも多くを所有しています。事実、多くのことで、一つのチームのように、根を下ろしています。彼らは、私たちがアメリカで行うような経営や労働争議を行わず、私たちのやり方よりも勝っています。

アメリカ人は日本人に、自分たちと同じように考えることを期待していますが、日本人は同じようには考えません。物事の決断は、より共同体的です。日本人にとって、将来性とはどのようなものでしょうか？ある日本人男性の親戚の叔父や叔母たちが、この男性の将来の決断をするのです。日本では、共同体的な決断をします。私の問題の一つは、初期の頃のことですが、アメリカ人は、日本では種を植えてそれが成長するようにしなければならぬ、と言われました。

エリクソン：あなたはその種を植えて成長するのを学ぶのにどのくらいの期間がかかりましたか？

フォックスウェル：どのくらいかかったか、わかりません。けれども、日本人は私に対して良い感情を持ってくれました。私がそのようにしたからです。また私は、息子と娘がその地で与えられました。私の4人の子供のうち、3人が日本で生活をしました。そのうちの1人は今はカベナント・カレッジで図書館司書をしています。私の娘とその夫です。

(25) ハリー・ブリッジズ (Harry Bridges, 1901—1990)。アメリカ人の組合の指導者。

地域教会での宣教師の役割

エリクソン：私たちが話していた教会の観点に話を戻しましょうか。あなたは神学教育機関で働いていました。どのくらい関わっていたのですか？ 地域教会でのあなたの役割は、どのようなものでしたか？

フォックスウェル：ジョン・ヤングと私は、日本で日本長老教会を開始しました。男性では、という意味です。独身の女性たちも仕事をしていましたが、ここでは男性という意味です。今の教会数や、教会員数はわかりませんが、とにかく、日本では紛れもなく、良い教派です。牧師たちは、作の神学校は1949年に始まりました。この学校で学んだ人々は、今日では影響力を持っています。

エリクソン：例えば地域教会での宣教師たちの役割については、どうでしょうか？

フォックスウェル：日本にいる宣教師、また将来の役割は、教会を始める助けをする、ということがその答えです。なぜなら、宣教師は自分の宣教師としての収入で生活ができ、物事が成長している間、何とかやっていくことができます。ですから、日本での宣教師の役割は、そこに行き、何かを始め、物事が立ち上がり、日本人の牧師が引越してきて、会衆が牧師を支える状況になるまでの間、その場所を整え、賃料を払うことです。そうすれば、宣教師は、日本で何かを始める教会開拓者として有益な存在となります。宣教師は施設を借りて、物事が進んでいくようにするのです。

エリクソン：今では、その始まりを開始できる訓練された日本人牧師は十分にいますか？

フォックスウェル：私たちはその地域でよくやったと思います。他のカペナント教団も神学校を持っていました。また、改革派教会も神戸に何年も前から神学校を持っていました。また東京宣教会も神学校を持っていました。確かに、保守派のキリスト教会は戦後、成長しました。私

私たちはキリスト教文書、キリスト教雑誌を押し進めました。簡単に言うと、USA Presbyterian board のような宣教の前、宣教委員会は日本には神学のリベラル派を送り、韓国には保守派を送りました。もし包括的な委員会であるなら、これがポリシーでした。このポリシーは、なぜ韓国では良い教会成長や素晴らしい教会成長があり、日本では少ないのか、という理由の一つです。

エリクソン:日本の教会のどのような点が、アメリカの教会が持っていたら良いと思う点でしょうか？私たちアメリカの教会にとって助けとなるような彼らの強みは何でしょうか。

フォックスウェル:私の知っている日本人のクリスチャンが、アメリカのクリスチャンたちよりもよく訓練されているということがよくあります。彼らは主流派と一緒にならなかったために、何とかやっていたためには、当初そうしなければなりません。彼らの隣人はクリスチャンではありませんでした。温室育ち、というのは日本にはありません。近年、おそらく知識のある人は、日本の教会の弱点の一つは、あまりに形式的で、心を通わせる関係と関わりがあまりにも少ない点だと見ています。

私はいつも興味があり、「韓国に比べて日本の教会の成長が弱いのは、例えばどう説明できますか。」と尋ねていました。その答えは、「家族のシステムです。家族が考えること以外の決断をすることが望ましくないとされていることです。」というものでした。もちろん、国家神道の社会におけるキリスト教の問題は、常に非常に大きな影響力があります。

日本から他の国へ宣教に行った男性に手紙を送りたいと思っていたことがありました。彼らは全てのことを知りたがりました。しかし、今ではそれも変わりました。

女性宣教師の役割

エリクソン:日本の女性宣教師の役割に関していえば、日本の女性の立場は、女性宣教師が果たす役割に影響を与えましたか？

フォックスウェル:ノンクリスチャンの社会では、女性は、どのような平等な役割をも持つことができません。キリスト教では、女性の役割が低い状況は、ノンクリスチャンの社会よりも少ないと言えます。長い間、日本の首相は妾を持つことができ、社会はそのことを非難しませんでした。私たちの神学校を卒業した女性で、義母の労働者、農業の労働者になった女性があります。その女性は牧師と結婚しましたが、女性は日本の文化の中では、おおよそ義母の無給の召使いのようなものです。彼女が神学校で教育を受けているかどうかにはかかわらず、です。私が行った時には、女性が知らないうちに夫による書類上の手続きで離婚されることもありました。全ては変化して、女性はより積極的な役割を持っていますが、多くのノンクリスチャンの社会では、女性はより低い地位に置かれており、それが日本では通常なのだと思います。

けれども、私たちの神学校では、非常に優れた女性の教授が数名いました。一人は、先ほど述べた田辺 滋です。彼女はこちらで学び、メイチェンのギリシャ語の本を日本語に翻訳しました。また私たちが始めた最初のクラスの初期の女性の一人は、いろいろな機関で理事をしています。私たちの卒業生は、基本的には、良い道を残し、出版をし、私たちはそれを嬉しく思っています。

エリクソン:日本の女性の役割がそれほど限られているという状況は、女性宣教師の活動に影響しましたか？

フォックスウェル:そうだと言えます。日本には女性宣教師たちがいました。多くは素晴らしい働きをしましたが、彼女たちにとっては、より困難でした。女性はノンクリスチャンの社会では、適切な役割を得る

ことができないのです。でも、もちろん日本にも、政府での高い職にある女性や、ビジネスで高い役職にいる女性もいます。それは、戦後の発展の中でのことです。

ビリー・グラハム・クルセード

エリクソン：ビリー・グラハム・クルセード⁽²⁶⁾では、どのような関わりがありましたか？

フォックスウェル：私は彼が最初に日本に来たときに、飛行機で会いました。私たちは個人的な友人で、共に過ごすことがありました。一度、彼が日本にいる時に私の誕生日があり、他の数人と一緒に私を招いてくれました。

私の一番下の娘が1955年に掃除機のポールで頭をぶつけたことがありました。娘は意識を失い、日本の医師たちはどうすべきか、意見が一致していませんでした。それがちょうど、ビリーが日本にいるときで、ビリーが、「メイヨー・クリニックに彼女を送りましょう。私が代金を払います。」と言ってくれました。そして、その時にいたボブ・ピアース⁽²⁷⁾が、「いいですね。私が帰りの旅費を払います」と申し出てくれました。私の娘は、後に日本への宣教師となり、今ではカバナント・カレッジの図書館司書の妻となっていますが、彼らは日本への宣教師でした。ビリーがメイヨー・クリニックに行くことを促してくれ、ビリーと一緒にいた人々が連れていってくれて、娘の世話をしてくれました。5ヶ月経って、娘はまだ意識がありませんでしたが、少しずつ、時間の経過とともに、症状は徐々に消え、後に日本で何期間か宣教師

(26) ビリー・グラハム・クルセード。日本では、1956年（国際スタジアム）、1967年（日本武道館、後楽園球場）、1980年（後楽園球場など）、1994年（東京ドーム）にビリー・グラハム国際大会が開催された。

(27) ロバート・ピアース (Robert Pierce, 1914—1978)。ワールド・ビジョンの創設者。

となりました。娘には、2人の娘に加えて、小さな双子の男の子がいます。とても可愛いです。彼らはとても可愛い小さな子供達です。

エリクソン：グラハム・クルセードに戻りますが、どのような評判がありましたか？

フォックスウェル：良いものです。ビリーは、日本に良い印象を残しました。彼が最初に来たのは1956年だったと思います。私は彼に言いました。「ビリー、日本人はオーバーコートを着ないんだよ。それは礼儀正しくないんだ。君もオーバーコートを脱ぐといいね。」日本のグラハム・クルセードは早い時期に、主が用いてくださいました。

エリクソン：その影響力は注目すべきものでしたか？

フォックスウェル：そう言えます。私は、最初のビリー・グラハム・クルセード委員会の計画の会議にいました。1956年だったと思います。もちろん、彼らは他の時にもいましたが、1956年でした。

アメリカ軍による占領期間

エリクソン：アメリカの占領の期間のことを、どのように思い起こしますか？

フォックスウェル：日本人たちは私の家の前に立ち、「ヤンキー、家に帰れ！」と叫んでいました。でも、アメリカの占領は、慈悲深い占領でした。降伏の時にマッカーサーの隣にいたチャプレンに、「私はなすべき多くのことがあるが、もし状況が発展するなら、それは何でもないことだ。」とマッカーサーが言いました。そしてマッカーサーは私の友人でもあるチャプレンに、「私はなすべきだと思ふことをしようと思ふ。」と語りました。マッカーサーはその時、非常に慈悲深く行いました。軍の全てが慈悲深かったということではありませんが、マッカーサーは慈悲深かったのです。彼が出入りする時に、日本人は彼をちらりとでも見ようと外に立って待っていました。彼の占領は成功し、慈悲深いものでした。

エリクソン：占領について、何か覚えていますか？

フォックスウェル：日本人はアメリカ人に対して非常に憎しみを抱いていました。それは隠されていましたが、徐々に去っていったと思います。日本人は、アメリカ人がとても良い人々だということに驚きました。占領軍（GI）が子供達に、物品をあげましたが、日本人はその時に何を期待できるのかがわからなかったのです。

マッカーサーのマンチェスターの伝記⁽²⁸⁾ (*American Caesar: Douglas MacArthur 1880-1964*) で、彼が日本に到着した直後の章を読みました。その中で、彼が最初の食事のためにホテルに行った時、側近が、毒味をするためにその食事を他の人に食べさせようとしたのですが、マッカーサーは、「その必要はない」と言ったというエピソードがありました。

彼は実際素早く、まず尊敬、そして称賛を勝ち得ました。彼が日本を離れる時に私は空港にいましたが、日本の人々は悲しんでいました。彼は、憲法の制定の準備を助けたと思います。

エリクソン：独立の復帰は、宣教活動や教会に影響を与えましたか？

フォックスウェル：物事はすばらしく、うまく行きました。日本人たちはメーデーに私の家の前に立ち、「ヤンキー、家に帰れ！」と叫びました。けれども私は、アメリカでよりも大学で教える特権的な自由を得られました。私の娘が脳の手術を受けた時、娘は掃除機のポールでぶつけて、脳に損傷を負って、アメリカへ向かいました。

日本人は、形式主義的なしきたりを破ることに、思いやりがありました。ある時、私は日本のあるオフィスに行き、「この人が私のトラックを買いたがっているので、私はこれを売りたいのですが、値段は、私たちがどのくらい税金を支払うべきかによります」と伝えました。その男性は、「いくらなら支払えるのですか？」と聞きました。そして彼は、「それでは、この場合、私がすることは……」と話が進みました。つまり、彼は、欲しい金額から始めるのではなく、私たちができるところ

(28) William Manchester, *American Caesar: Douglas MacArthur 1880-1964* (Little, Brown and Company, 1978).

ろから始めてくれたのです。多くの場合に、日本人から多くの親切を受けました。実際、日本の政府から、社会保障も受けていました。

大学での英語クラス

エリクソン：先ほどインタビューを始める前に、神学校で教えている間、大学でクリスチャンではない学生たちの出会いを楽しんでいたと話されていました。このことを少し話していただけませんか？

フォックスウェル：神学校で教えることは、人々を訓練し、もっとも価値のあることでしたが、大学の英語のクラスでも教えていました。英会話を学ぶクラスでしたが、希望すれば、聖書的な教材を使用する自由もありました。キリスト教について何も知らない人々と関わることができるので、私は本当に楽しんでいました。

ノンクリスチャンの学生がある時に言ったことを覚えています。「私たちは、『天地は消え去ります。しかし、わたしのことばは決して消え去ることがありません』（マタイ 24：35）という言葉を読んでいます、これはどういう意味でしょうか？」この日本人の学生は、クリスチャンではなく、クリスチャンの背景は持っていませんでしたが、「歴史の流れがこれを成就する方向にあるように見えます」と言いました。彼は、聖書が日本でのベストセラーであることを知っていました。私は大学でのクラスを数多く担当していましたが、それは本当に楽しく、挑戦的で、刺激的でした。

エリクソン：学生たちは、福音を語ることにオープンでしたか？

フォックスウェル：そうです。結局、日本の軍事的な敗北は、日本の神々の敗北でもありました。なぜなら、石油や鋼鉄が不足していることが戦争に不利であると日本人は気が付いていましたが、日本の神々はそのような不足に打ち勝とうとしていたからです。

宣教のこぼればなし

エリクソン: 宣教師としてのキャリアを振り返る時に、話したいような何か面白いことはありましたか？

フォックスウェル: 幸せという言葉は、「幸福」と言います。幸福、です。こ・う・ふ・く。「ふく」とは腹であり、「くう」はない、という意味です。ですから、空腹はお腹が空いたという意味で、幸福は幸せです。私はチャペルで話をしたある時、学生にこのように語りました。「神のみ心のうちに喜びなさい。そうすればあなたは幸せになるのです。」「幸福」という代わりに、私は「空腹」と言ってしまいました。「神の御心のうちに喜びなさい。そうすれば、あなたは空腹になるでしょう。」学生たちは下を向いていました。一人の日本人の教授が後から来て、「先生、今日何をおっしゃったか、ご存知ですか？」と尋ねられました。私が、「何か具合悪いことを言ったことがわかりました」と答えると、彼女は「『もし神のみ心のうちに喜ばば、お腹がすくでしょう』と言われましたよ。」と教えてくれました。それで、同じ間違いは二度としなくなりました。

オンノさんという人がいました。もし正確に発音すれば、「温水の野」です。でももし母音を長くしすぎると、「オー！ ノー！」となってしまいます。後に私が彼に洗礼を授ける時に、後から言いました。「彼を喜ばせるんですよ」。私が「そうです」と答えると、「では、母音の長さに注意してください」と言われました。それで私は「オンノさん」の代わりに、彼を「オー！ ノー！ さん」と呼びました。

著書 *Missionary Magician* について

エリクソン: あなたの著作について一つ質問をしたいと思います。著書では、あなたはマジシャンとしての経験を非常に強調されていました。ど

のようにしてそう決めたのですか？

フォックスウェル：宣教師としての私の人生について書く時の問題は、それがルーティンであったということです。私は神学校で教え、出かけて行き、ノンクリスチャンとのバイブルクラスを行いました。それは何か面白がってもらえることではありません。多分、もし私が長生きするなら、もっとできるでしょうか。でもマジックのことは、それを読む人たちに楽しんでもらい、これは読める本だ、と思ってもらえます。

エリクソン：それは、あなたの編集者の決断か助言だったのですか。

フォックスウェル：そうです。最終的な出版物では、書き入れたことや、取り除かれたこともあります。2版まで出ました。私が驚いたことは、その本が世俗のマジックの出版業界でこき下ろされると思っていたのですが、非常に良い評価をいただきました。

この本は、私にとって、良いツールです。人と少し良い関係を築き、人々に本をあげることで、この本が人々とのコミュニケーションとなってくれました。「まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます（マタイ6：33）。」と書かれている通りです。私はこの本の中で、これを伝えようとしています。

この本の中で述べているように、私は祖父のことをあまり知りません。私は自分の孫に、私が自分の祖父について知っていたよりもっと私のことを少しでも知って欲しいと思います。

エリクソン：あなたが本の中で言及されていた一つの出来事ですが、あなたが日本に到着してすぐ後に、劇場関係の人脈でショーの機会が提供されたけれども、最終的にそれを断ったのですね。

フォックスウェル：最初にそれを断るべきでした。その代わりに、私はこう言ったのです。「私は日曜日には絶対にショーをしません。それに、私はとても忙しいので、長距離移動をすることはできません。」さらに、「ある映画フィルムは、倫理的に私はとても賛成できないものです。」と

言いました。

私はエージェントから電話をもらい、日本で彼と会いました。この時、劇場の人が日本に入ることは、おそらくもっと難しいことでしたが、私は日本にいました。とにかく、この人が私に電話をかけてきて、こう言いました。「これについては私が責任をとります。」私は「なんですか？この責任を取るのですか？」と言いました。彼は、「劇場のマネージャーに、あなたが承認をしない限り映画フィルムを見せないという同意を得させました。日曜日にはショーをしなくても構いません。もし長距離なら、ファーストクラスでの移動です。」と言いました。私が彼に「私はとにかく劇場ではできません。」と伝えると、彼は少し気分を害していました。私は彼を責めませんが、私はそのようなオファーをもらいました。

エリクソン:あなたが特権をもらえるような、そのようなビジネスの機会は他にありましたか？

フォックスウェル:それを誇りにしているわけではありませんが、利益を得るために、軍のクラブで働いたこともありました。私の理想的な時間の優先順位はそこではありませんでした。つまり、生きるために、この軍のクラブを予約する必要はなかったのですが、多くのことを行い、工夫を凝らしました。GIが大きなパーティを孤児たちのために行った時、「私が少しばかりこのことを話すのは構わないですよ」と伝えると、彼らは、「あなたのお好きなように」と言ったので、私は子供たちに日本語のトラクトを配りました。私はGIによる世俗のパーティよりも、もっとクリスチャンの証としてのものを入れました。

日本人で、「私たちのPTAに来て、あなたの手品、マジックをしてくれませんか。キリスト教のことも少し話していいですから」という依頼もありました。彼らはキリスト教のことを知らないのです。私はマジックによって、もしマジックがなければ入れなかったような、たくさんの自由な入場の機会を得ました。私は必要以上に行いましたが、なすべき優先順位をつけることは大変でした。

私たちが初めての休暇で乗船した時、ある人が言いました。「あなたが船で戻って来る時には、私があなたに一等の援助をします。そして、パフォーマンスをしてくれますか。」それで私は船上で初めてパフォーマンスをしました。マジックショーを土曜日に聴衆に向けてしました。私は、「これは私の本来の姿ではないのです。私は……」と私が何者であるかを彼らに伝えました。そして、私はその次の日に礼拝で説教をする、と伝えました。水夫たちが船の上で、こう言っているのを聞きました。「今回の船には、神聖な礼拝に出席する人たちが、過去6ヶ月の間に船に乗った人よりもたくさんいるね。」私は土曜日の夜、乗船者のためにショーを行い、その人たちを船で行う日曜日の朝の礼拝に招きました。これは、うまくいきました。

終わりに

エリクソン:もっとたくさん聞きたいことがあります、ここで終わります。フォックスウェル牧師、私達のために多くの時間を割き、また今後聞いてくださる人々のために分かち合ってください、ありがとうございました。

フォックスウェル:取るに足りないものがたくさんあったのではないかと思います。でもとにかく、私は良い人生を送りました。主が私たちを日本に導いてくださったと信じています。私は訓練した学生たちをととても誇りに思っています。実際、数人の改心者を得るためにくまなく探しまわる代わりに、非常な特権を得たと思います。私は自分の時間を、フルタイムのクリスチャンの働きに出るための人々を訓練するために使い、私が訓練をした神学校の卒業生たちは、日本での出版や他の出版、訓練などに重要な貢献をしました。

また私は、ホイトンにも、とても感謝しています。全ての人が、二つの学位をとり、学長の娘と結婚できるわけではありません。感謝しています。ホイトンは、私の個人的な人生をととても豊かに祝福してく

れて、三銃士の仲間であるケン・ハンセンやドン・ホークなどの生涯にわたる友情を育む友人たちも与えてくれました。私はとても祝福されています。

私の書いた本は優れた本だとは思いませんが、少なくとも、何かを残すことができました。私は今、14人の孫がいます。ついに、ミシガンでのマジシャンの大会で、私は、最も孫の多いマジシャンとして賞を得ました。そしてもちろん、ひ孫もいます。クリスティン・ロエックスはここで一年目を終えました。あまり会う機会はないのですが。

エリクソン：ここで終わらしましょう。ありがとうございました。

フォックスウェル：ありがとうございました。楽しかったです。私はホイートンの伝統によって、祝福され、豊かにされました。全ての人がここに来て、二つの学位を取り、学長の娘と結婚できないことを残念に思いますが、全ての学長に独身の娘がいるわけではありませんからね。

(インタビュー終了)

フィリップ・ロス・フォックスウェル 生涯概略⁽²⁹⁾

1914年 アメリカに生まれる。

幼少期に手品と出会い、手品を始める。高校卒業後はプロフェッショナル手品師として、アメリカ各地の学校などで手品ショーを行う。

1935年 マジックショーを行う傍ら、ムーディ聖書学院のサマーコースに入学。

1938年 ホイートン・カレッジに入学。在学中に、ビリー・グラハムや東京キリスト教短期大学設立に関わるドナルド・ホークと出会

(29) 本オーラルヒストリー、*Philip Foxwell: Missionary Magician* (Pasadena: William Carley Library, 1989)、“Philip Foxwell 1914-2013” (<https://rosefamilyfuneralhome.com/tribute/details/171/Philip-Foxwell/obituary.html>, 2019年5月25日最終閲覧)等を参照に翻訳者作成。

う。

- 1942年 ホイートン・カレッジにて BA を取得。
- 1944年 ホイートン大学院にて MA を取得。
- 1945年 ホイートン・カレッジ在学時代に知り合ったジェーン・アリス・バズウェル (Jane Alice Buswell) と結婚。在日中に誕生した子供も含め、後に一男三女の父親になる。
- 1946年 北バプテスト神学校にて BD を取得。
- 1947年 フェイス神学校にて TSM (Master of Sacred Theology) を取得。
- 1948年 独立長老伝道会の宣教師として来日。
- 1949年 東京基督神学校を設立し、証拠論、ギリシャ語等を担当。
- 1979年 アメリカに帰国するまで 31 年間にわたり、日本宣教、及び神学教育に携わる。
- 帰国後は、The US Center for World Mission in Pasadena、また The Japanese Evangelization Center の議長として活動。
- 2013年 9月 29日 カルフォルニアにて 98 歳で召天。

著書 *Philip Foxwell: Missionary Magician* (Pasadena: William Carley Library, 1989).